

## 平成20年3月期 中間決算関連補足資料

I. 連結財務ハイライト	1
II. 連結損益計算書	2
III. 連結貸借対照表	5
IV. 連単倍率、連結子会社、従業員数、MR数	7
V. 四半期業績の推移	7
VI. 個別財務ハイライト	8
VII. 株式の状況	9
VIII. 開発状況表	10
IX. 主な開発品のプロフィール	14

平成19年11月7日

### 大日本住友製薬株式会社

- ・本資料の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しています。実際の業績は、今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。
- ・本資料の数字は四捨五入で表示しています。四捨五入のため、合計数字に差異が生じる場合があります。

## I. 連結財務ハイライト

### 1. 損益計算書項目

(億円)

	19年3月期	平成20年3月期		平成19年 3月期	平成20年3月期	
	中間期	中間期	増減率%		予想	増減率%
売上高	1,269	1,287	1.4	2,612	2,670	2.2
売上原価	481	482	0.2	993	1,003	1.0
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	584 (207)	583 (197)	△ 0.2 (△ 4.9)	1,163 (409)	1,257 (470)	8.1 (15.0)
営業利益	205	223	9.0	456	410	△ 10.0
経常利益	196	222	13.3	432	402	△ 6.9
中間(当期)純利益	95	138	45.5	226	247	9.3

\* 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

1株当たり当期(中間)純利益(円)	23.84	34.71	56.86	62.15
自己資本当期純利益率(ROE)	3.3%	4.5%	7.6%	7.9%
連結配当性向	29.4%	25.9%	24.6%	29.0%

### 2. 貸借対照表項目

(億円)

	平成19年	平成19年	前期末との 増減額
	3月末	9月末	
総資産	3,825	3,842	16
純資産	3,060	3,138	78
自己資本	3,051	3,129	78
自己資本比率	79.8%	81.4%	

### 3. 設備投資及び減価償却費の状況

(億円)

	19年3月期	20年3月期	増減額	平成19年	平成20年
	中間期	中間期		3月期	3月期(予)
設備投資額(無形固定資産を含む)	50	48	△ 2	95	180
減価償却実施額	55	54	△ 1	113	113

- 平成20年3月期の主な設備投資
  - 鈴鹿工場 新固形製剤棟の建設 100億円 (総予算 100億円、平成19年12月竣工予定)
  - 総合研究所 西棟動物室改修工事 5.5億円 (総予算 5.5億円、平成20年1月完成予定)

### 4. キャッシュ・フロー計算書項目

(億円)

	19年3月期	20年3月期	増減額
	中間期	中間期	
営業活動によるキャッシュ・フロー	226	177	△ 48
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 109	△ 497	△ 388
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 46	△ 33	13
現金及び現金同等物の期末残高	784	466	△ 318

・資金運用手段を変更し、短期貸付金が増加

## II. 連結損益計算書

### 1. 損益計算書項目

(億円)

	19年3月期	平成20年3月期		
	中間期	中間期	増減額	増減率%
売上高	1,269	1,287	18	1.4
海外売上高	106	119	13	12.5
売上原価	481	482	1	0.2
売上総利益	789	806	17	2.2
販売費及び一般管理費	584	583	△ 1	△ 0.2
販売費・一般管理費	377	386	9	2.4
研究開発費	207	197	△ 10	△ 4.9
営業利益	205	223	18	9.0
営業外収益	11	15	4	
営業外費用	20	17	△ 3	
経常利益	196	222	26	13.3
特別利益	—	—	—	
特別損失	35	—	△ 35	
特別退職金	29	—	△ 29	
退職給付制度改定に伴う損失	6	—	△ 6	
税金等調整前中間純利益	160	222	62	38.5
法人税等	65	83	18	
少数株主利益	0	1	0	
中間純利益	95	138	43	45.5

(増収要因)
・戦略4製品の堅調な推移
・輸出の増加
(減収要因)
・物流拠点・システム統合による前期末前倒し出荷の影響
・戦略4製品以外の既存製品の売上減少
・工業所有権収入の減少
・利益貢献度の高い戦略4製品の売上増加により売上原価率改善 (37.9%→37.4%)
・広告宣伝費の増加
・海外臨床開発費用の未消化
・前中間期は導入一時金が含まれていた
・受取利息、受取配当金の増加等

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

### 2. 事業の種類別セグメント情報

(億円)

	平成19年3月期中間期			平成20年3月期中間期			平成19年3月期			平成20年3月期(予)		
	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計
売上高	1,003	266	1,269	1,020	268	1,287	2,063	550	2,612	2,100	570	2,670
営業利益	198	7	205	218	6	223	444	12	456			

### 3. 主要製品の販売状況

国内売上高

(リポート控除前、億円)

品目 [薬効]	平成19年3月期 中間期	平成20年3月期 中間期	平成19年3月期	平成20年3月期 予想
アムロジーン [高血圧症・狭心症治療薬]	287	321	592	660
ガスモチン [消化管運動機能改善剤]	89	94	185	200
メロペン [カルバペネム系抗生物質製剤]	70	71	143	150
プロレナール [末梢循環改善剤]	68	71	138	150
エバステル [持続性抗アレルギー剤]	43	39	114	110
スミフェロン [天然型インターフェロソ $\alpha$ 製剤]	32	30	64	61
グロウジェクト [ヒト成長ホルモン製剤]	24	21	48	49
ドプス [ノルエピネフリン作動性 神経機能改善剤]	23	21	45	40
キュバール [吸入ステロイド喘息治療剤]	23	20	48	45
グリミクロン [経口血糖降下剤]	23	20	44	41
エクセグラン [抗てんかん剤]	18	18	36	35
タガメット [H <sub>2</sub> 受容体拮抗剤]	20	17	39	33
アルマー [高血圧症・狭心症・不整脈 治療剤]	18	16	35	32
セディール [セロトニン作動性抗不安薬]	15	15	30	30
ルーラン [抗精神病剤]	16	15	31	31
アムビゾーム [深在性真菌症治療剤]	3	12	13	40

輸出高

(億円)

品目 [薬効]	平成19年3月期 中間期	平成20年3月期 中間期	平成19年3月期	平成20年3月期 予想
メロペネム [カルバペネム系抗生物質製剤]	79	90	161	160
モサプリド [消化管運動機能改善剤]	6	8	14	18
ゾニサミド [抗てんかん剤]	4	1	8	2

## 工業所有権収入

(億円)

	平成19年3月期		平成20年3月期	
	中間期		中間期	予想
工業所有権収入	24		16	28
				39

## 4. 販売費及び一般管理費

(億円)

	平成19年3月期		平成20年3月期		平成19年		平成20年	
	中間期	売上比%	中間期	売上比%	3月期	売上比%	3月期(予)	売上比%
売上高	1,269	100.0	1,287	100.0	2,612	100.0	2,670	100.0
人件費	162	—	161	—	321	—		
広告宣伝費	24	—	30	—	50	—		
販売促進費	47	—	45	—	95	—		
その他	145	—	150	—	289	—		
販売費・一般管理費	377	29.7	386	30.0	754	29.0	787	29.5
研究開発費	207	16.3	197	15.3	409	15.6	470	17.6
販売費及び一般管理費	584	46.0	583	45.3	1,163	44.6	1,257	47.1

### Ⅲ. 連結貸借対照表

[資産の部]

(億円)

科 目	平成19年 3月31日	平成19年 9月30日	対前期末 増減額
[ 資 産 の 部 ]	3,825	3,842	16
(流動資産)	2,343	2,378	35
現金及び預金	558	406	△ 152
受取手形及び売掛金	888	852	△ 36
有 価 証 券	280	90	△ 190
た な 卸 資 産	450	468	19
繰 延 税 金 資 産	104	114	10
短 期 貸 付 金	—	400	400
そ の 他	66	51	△ 16
貸 倒 引 当 金	△ 2	△ 3	△ 1
(固定資産)	1,482	1,464	△ 18
有形固定資産	652	649	△ 3
建 物 及 び 構 築 物	374	367	△ 7
機 械 装 置 及 び 運 搬 具	113	112	△ 1
土 地	100	100	—
建 設 仮 勘 定	19	25	5
そ の 他	46	45	△ 0
無形固定資産	67	64	△ 3
投資その他の資産	763	751	△ 12
投 資 有 価 証 券	520	481	△ 39
繰 延 税 金 資 産	0	0	0
そ の 他	246	273	27
貸 倒 引 当 金	△ 4	△ 3	0
資 産 合 計	3,825	3,842	16

・関係会社への貸付実施により、預金および  
コマーシャル・ペーパーが減少し、短期貸  
付金が増加

・有価証券時価評価による減少  
・バイオベンチャーファンドへの投資や  
社債購入による増加

・長期性預金への預入等による増加

	平成19年3月期	平成20年3月期 中間期
売上債権滞留月数	4.08カ月	3.97カ月

[負債純資産の部]

(億円)

科 目	平成19年 3月31日	平成19年 9月30日	対前期末 増減額
[ 負 債 の 部 ]	765	703	△ 62
(流動負債)	560	561	1
支払手形及び買掛金	180	151	△ 29
1年以内に返済予定の 長 期 借 入 金	—	46	46
未 払 法 人 税 等	82	79	△ 3
賞 与 引 当 金	80	72	△ 8
返 品 調 整 引 当 金	1	1	0
売 上 割 戻 引 当 金	5	4	△ 0
訴 訟 関 連 費 用 引 当 金	10	10	—
そ の 他	201	198	△ 4
(固定負債)	205	142	△ 63
長 期 借 入 金	46	—	△ 46
繰 延 税 金 負 債	21	9	△ 12
退 職 給 付 引 当 金	82	83	1
役 員 退 職 慰 労 引 当 金	1	0	△ 0
そ の 他	56	49	△ 7
[ 純 資 産 の 部 ]	3,060	3,138	78
(株主資本)	2,873	2,983	110
資 本 金	224	224	—
資 本 剰 余 金	159	159	△ 0
利 益 剰 余 金	2,495	2,606	111
自 己 株 式	△ 5	△ 5	△ 1
( 評 価 ・ 換 算 差 額 等 )	178	146	△ 33
その他有価証券評価差額金	178	146	△ 33
( 少 数 株 主 持 分 )	9	10	1
負債純資産合計	3,825	3,842	16

・長期借入金が1年以内返済予定と  
なったため振替

・有価証券時価評価による減少

#### IV. 連単倍率、連結子会社、従業員数、MR数

##### 1. 平成20年3月期中間期 連単倍率 (億円)

	連結	個別	差額	倍率(倍)
売上高	1,287	1,206	81	1.07
営業利益	223	222	1	1.01
経常利益	222	221	1	1.00
当期純利益	138	139	△1	0.99

##### 2. 連結子会社の状況 (平成19年9月30日現在)

	設立年月日	資本金	持株比率
五協産業株式会社	昭和22年10月	100百万円	52.48%
DSファーマバイオメディカル株式会社	平成13年4月	480百万円	100.00%

3. 従業員数 (平成19年9月30日現在) : 連結・・・4,878人、個別・・・4,719人

4. MR数 (平成19年9月30日現在) : 1,450人…マネージャー除く、1,650人…マネージャー含む

#### V. 四半期業績の推移

(億円)

	平成19年3月期				平成20年3月期	
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期
売上高	653	617	689	653	653	634
売上原価	246	235	258	255	254	228
販売費及び一般管理費	285	299	294	285	278	305
販売費・一般管理費	189	188	189	188	185	201
研究開発費	96	111	105	97	93	104
営業利益	122	83	137	114	121	102
営業外収益	7	4	4	4	11	4
営業外費用	4	16	4	19	4	13
経常利益	125	71	137	99	128	94
特別損失	29	6	-	12	-	-
税金等調整前四半期純利益	95	65	137	87	128	94
四半期純利益	56	39	84	47	78	60

## Ⅵ. 個別財務ハイライト

### 1. 損益計算書項目

(億円)

	19年3月期	平成20年3月期		平成19年	平成20年3月期	
	中間期	中間期	増減率%	3月期	予想	増減率%
売上高	1,204	1,206	0.2	2,478	2,510	1.3
売上原価	424	416	△ 1.9	876	879	0.3
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	577 (207)	569 (196)	△ 1.4 (△ 5.3)	1,149 (409)	1,224 (470)	6.5 (15.0)
営業利益	203	222	9.1	453	407	△ 10.1
経常利益	194	221	13.7	429	400	△ 6.8
中間(当期)純利益	94	139	47.1	225	248	10.0

\* 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

1株当たり当期(中間)純利益(円)                      23.76                      34.96                      56.72                      62.40

### 2. 貸借対照表項目

(億円)

	平成19年 3月末	平成19年 9月末	前期末との 増減額
総資産	3,764	3,776	12
純資産	3,041	3,119	78
自己資本	3,041	3,119	78
自己資本比率	80.8%	82.6%	

Ⅶ. 株式の状況（平成19年9月30日現在）

1. 発行可能株式総数 1,500,000,000株
2. 発行済株式の総数 397,900,154株（自己株式 453,498株）
3. 株主数 16,724名
4. 大株主

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
	千株	%
住 友 化 学 株 式 会 社	199,434	50.12
稲 畑 産 業 株 式 会 社	33,282	8.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 ( 信 託 口 )	16,059	4.04
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 ( 信 託 口 )	10,989	2.76
日 本 生 命 保 険 相 互 会 社	10,530	2.65
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	7,000	1.76
住 友 生 命 保 険 相 互 会 社	5,776	1.45
ニッセイ同和損害保険株式会社	4,928	1.24
第 一 生 命 保 険 相 互 会 社	3,248	0.82
株 式 会 社 三 菱 東 京 U F J 銀 行	3,144	0.79

Ⅷ. 開発状況表

・ 国内で開発中の品目

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症	備考
申請中	AD-5423 経口剤	ブロナンセリン blonanserin	統合失調症治療剤	自社開発品
	経口剤	イルベサルタン irbesartan	高血圧症治療剤	sanofi-aventis 社起源。ブリストル・マイヤーズ(株)よりサブライセンス。塩野義製薬(株)と国内共同開発
	SM-11355 注射剤	ミリプラチン水和物 miriplatin hydrate	肝細胞癌治療剤	自社開発品
申請中 新効能	AD-810N 経口剤	ゾニサミド zonisamide	適応症追加 (パーキンソン病)	自社開発品 別銘柄申請 既承認適応症:てんかん (製品名:エクセグラン)
	スミフェロン SUMIFERON 注射剤	インターフェロンアルファ (NAMALWA) interferon- $\alpha$ (NAMALWA)	適応症追加(C型代償性肝硬変)	GlaxoSmithKline 社からの導入品 既承認適応症:C型慢性肝炎、腎癌 他

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症	備考
第Ⅲ相 新効能	メロペン MEROPEN 注射剤	メロペネム水和物 meropenem hydrate	適応症追加 (発熱性好中球減少症)	自社開発品 既承認適応症:種々の細菌による中等度以上の感染症
	ガスモチン GASMOTIN 経口剤	クエン酸モサプリド mosapride citrate	適応症追加 (「ニフレック」併用によるバリウム注腸X線造影検査前処置)	味の素(株)との共同開発 既承認適応症:慢性胃炎に伴う消化器症状(胸やけ、悪心・嘔吐)

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症	備考
第Ⅱ相	AS-3201 経口剤	ラニレスタット ranirestat	糖尿病合併症治療 剤	自社開発品 杏林製薬(株)との共同開発 後期第Ⅱ相
	SM-13496 経口剤	ルラシドン lurasidone	統合失調症治療剤	自社開発品 第Ⅲ相準備中
	SMP-114 経口剤	rimacalib	関節リウマチ治療剤	自社開発品
	SMP-508 経口剤	レパグリニド repaglinide	糖尿病治療剤	Novo Nordisk 社からの導 入品 第Ⅲ相準備中
	SMP-862 経口剤	メトホルミン塩酸塩 metformin hydrochloride	糖尿病治療剤	Merck Sante 社からの導 入品
	AC-3933 経口剤	radequinil	認知症治療剤	自社開発品
第Ⅱ相 新効能	プロレナール PRORENAL 経口剤	リマプロスト アルファデクス limaprost alfadex	適応症追加 (頚椎症)	小野薬品工業(株)との共同 開発 既承認適応症:閉塞性血 栓血管炎、腰部脊柱管狭 窄症による諸症状

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症	備考
第Ⅰ相	SMP-986 経口剤	未定	過活動膀胱治療剤	自社開発品

【2007年7月 第1四半期決算発表時点からの主な変更点】

SM-11355(ミププラチン水和物)  
AS-3201(ラニレスタット)  
SM-13496(ルラシドン)  
SMP-986

第Ⅱ相から申請中に変更  
後期第Ⅱ相準備中から後期第Ⅱ相に変更  
「第Ⅲ相準備中」を備考欄に追記  
第Ⅰ相に追加

・ 海外で開発中の品目

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症	備考
第Ⅲ相	SM-13496 経口剤	ルラシドン lurasidone	統合失調症治療剤	自社開発品 米国・欧州等:第Ⅲ相

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症	備考
第Ⅱ相	SMP-114 経口剤	rimacalib	関節リウマチ治療剤	自社開発品 欧州:後期第Ⅱ相
	AD-5423 経口剤	ブロナンセリン blonanserin	統合失調症治療剤	自社開発品 米国・欧州:第Ⅱ相
	AC-3933 経口剤	radequinil	認知症治療剤	自社開発品 米国・欧州:前期第Ⅱ相
	SMP-986 経口剤	未定	過活動膀胱治療剤	自社開発品 米国・欧州:第Ⅱ相

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症	備考
第Ⅰ相	SMP-028 経口剤	未定	気管支喘息治療剤	自社開発品 米国:第Ⅰ相

【2007年7月 第1四半期決算発表時点からの主な変更点】

SM-13496(ルラシドン)

米国・欧州等:第Ⅲ相準備中から第Ⅲ相に変更

・ 海外導出品の開発状況

一般名／コード名 (日本での販売名)	薬効分類	開発状況
AG-7352	抗癌剤	2003年10月、Sunesis社に全世界の独占的開発権をライセンス、同社が北米で第Ⅱ相試験実施中(同社開発コード：SNS-595)
SMP-601	重症感染症治療剤	2005年5月、Protez Pharmaceuticals社へ欧米での開発・販売権をライセンス 同社がスイスで第Ⅰ相試験を実施中
塩酸アムルピシン (カルセド)	抗癌剤	2005年6月、Pharmion社(旧Cabrellis社)へ欧米での開発・販売権をライセンス 同社が欧米で第Ⅲ相試験を実施中
ラニレスタット AS-3201	糖尿病合併症治療剤	2005年9月エーザイ(株)に日本を除く全世界の開発・販売権をライセンス 同社が海外第Ⅲ相試験の計画を検討中
ドロキシドパ (ドプス)	ノルエピネフリン作動性神経機能改善剤	2006年5月、Chelsea社に日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の開発・販売権をライセンス 同社が欧米で第Ⅲ相試験を準備中

【2007年7月 第1四半期決算発表時点からの主な変更点】

塩酸アムルピシン(カルセド)  
ドロキシドパ(ドプス)

欧米で第Ⅱ相試験実施中から第Ⅲ相試験実施中に変更  
新規記載

## IX. 主な開発品のプロフィール

### AD-5423 (プロナンセリン) 統合失調症治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 臨床試験においてドーパミン-2 受容体およびセロトニン-2 受容体の遮断作用を有しており、統合失調症の陽性症状（幻覚、妄想など）のみならず、陰性症状（感情の平板化、意欲低下など）に対する改善効果が示された。また、類薬に比べ錐体外路症状や体重増加等の副作用が少ないことも示された。
- ・ 開発段階：申請中（国内）、フェーズⅡ（米国・欧州）

### イルベサルタン 高血圧症治療剤

- ・ sanofi-aventis 社起源、ブリストル・マイヤーズ(株)からサブライセンス、国内は塩野義製薬(株)と共同開発
- ・ 国内で6番目のARB（アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬）
- ・ 長期に安定した降圧効果を示す。腎、心保護作用を有する。欧米では上市済みであり、有効性および安全性について豊富なエビデンスが存在する。
- ・ 開発段階：申請中（国内）

### SM-11355 (ミリプラチン水和物) 肝細胞癌治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、脂溶性白金錯体で、リピオドールに懸濁して肝動注する。リピオドールを担体として用いることで、腫瘍部位に選択的に、かつ長時間徐放性に活性体を放出させることができる。臨床試験において、全身性の副作用が軽減され強い抗腫瘍効果を発揮することが示されている。
- ・ 開発段階：申請中（国内）

### AD-810N (ゾニサミド) パーキンソン病 (適応症追加)

- ・ 自社開発品
- ・ 1989年6月、抗てんかん剤として発売（製品名「エクセگران」）。ドーパミン受容体作用薬に代表される従来の抗パーキンソン病薬と異なるメカニズムでパーキンソン病の症状を改善すると考えられる。
- ・ 開発段階：申請中（国内）

### AS-3201 (ラニレスタット) 糖尿病合併症治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病合併症の一つである糖尿病性神経障害を改善する。同種薬剤に比べ、酵素阻害作用が強く、作用持続が長い。ヒト神経内への本剤の移行、用量依存的な神経内ソルビトール、フルクトースの蓄積阻害が臨床試験で確認されており、これまでに得られた試験成績から本剤による神経機能および症状の改善効果が期待される。
- ・ 2005年9月に海外の開発・販売権についてエーザイ(株)とライセンス契約を締結した。同社が海外フェーズⅢの計画を検討中。
- ・ 開発段階：フェーズⅡb（国内、杏林製薬(株)との共同開発）

#### **SM-13496 (ルラシドン) 統合失調症治療剤**

- ・ 自社開発品
- ・ ドーパミン-2、セロトニン-2、-7 受容体に対する強力な拮抗作用と、セロトニン-1A 受容体に対する高い親和性を有している。統合失調症に対して持続的な効果を示すとともに、錐体外路系や心臓系に対する作用および体重増加等について高い安全性を有すると期待される。
- ・ 開発段階：フェーズⅢ（米国・欧州等）、フェーズⅢ準備中（国内）

#### **SMP-114 関節リウマチ治療剤**

- ・ 自社開発品
- ・ 経口投与の新規DMARD (Disease Modifying Anti-Rheumatic Drug) であり、関節リウマチにおける慢性炎症、関節破壊、関節変形の進行を抑制することが期待される。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（欧州）、フェーズⅡ（国内）

#### **SMP-508 (レパグリニド) 糖尿病治療剤**

- ・ Novo Nordisk 社から導入
- ・ 国内で3番目の速効型インスリン分泌促進剤。食後血糖上昇の抑制に加え、空腹時血糖やHbA1cの低下が期待される。
- ・ 開発段階：フェーズⅢ準備中（国内）

#### **SMP-862 (メトホルミン塩酸塩) 糖尿病治療剤**

- ・ Merck Sante 社から導入
- ・ 本剤は、インスリン分泌促進を伴わず、インスリン抵抗性等を改善して血糖降下作用を示す特長を持つ塩酸メトホルミン製剤である。当社は、1961年に塩酸メトホルミンを含有する「メルビン錠」を日本で最初に自社開発・販売しているが、近年の作用メカニズムの解明や欧米の大規模試験での臨床知見の蓄積を受け、更に日本人でのEBMに資する治療情報を提供することが重要であると考え、本剤にて現在の新薬承認基準に適合したデータを再整備し、適切な効能効果、用法用量の新規取得を目指している。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（国内）

#### **AC-3933 認知症治療剤**

- ・ 自社開発品
- ・ ベンゾジアゼピン受容体にパーシャルインバースアゴニストとして作用する。アセチルコリンエステラーゼ阻害剤とは異なり、アセチルコリン遊離促進によりアセチルコリン神経系を賦活するとともに、グルタミン酸神経系を賦活する作用も有し、認知症の中核症状である記憶障害の改善が期待される。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（米国・欧州）、フェーズⅡ（国内）

#### **SMP-986 過活動膀胱治療剤**

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、ムスカリン受容体に対する拮抗作用に加え、Naチャンネル阻害作用による求心性神経の過活動を抑制する作用を有することで、効果的に尿意切迫感を抑制し、そのため尿意切迫感や排尿、及び尿失禁の回数を減少させると同時に1回あたりの排尿量を増加させ、また、ムスカリン-3拮抗作用に由来する副作用（口渇）との分離も期待できる。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（米国・欧州）、フェーズⅠ（国内）

## SMP-028 気管支喘息治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は気管支喘息の病態形成に関与する主要な炎症細胞に幅広い抑制作用を示す。強い抗炎症作用を有する新規メカニズムの喘息治療剤になることを期待している。
- ・ 開発段階：フェーズ I（米国）

以 上